

世界かんがい施設遺産「竹田のかんがい用水群」申請施設の概要一覧表 (R7. 4. 1 現在)

施設名称 所在地	施設分類	受益 面積 (ha)	建設後の 経過年数(西暦 年)	特筆すべき技術的特長	伝統文化等	運営・管理	他機関による 評価	施設の 認知度	多様な主体 の参画	地域活性化	その他特筆 すべき事項
①城原井路 大分県竹田市	堰、水路 など	[城 原 井 路]179	[城原井路]361年 (1663年)	[城原井路] ・1151年(仁平1年)源為頼が水路計画を作成。計画を修正し中川久清が井路を完成。 ・熊沢蕃山の技術を使い、最初に完成した井路 ・以降、井手(井路)が各地で開かれ、竹田を潤す縦横無尽の水路網が整備。 ・頭首工の取り方、勾配のつけ方、流路の取り方は、その後の岡藩内の井路づくりの手本となっている。 ・1922年(大正11年)に板堰から練積石垣溢流式へ改修 ・天然の岩盤をくりぬき、通称「はなぐり水門」を築いた。	・[全共通]井路の開鑿から今日に至るまでの先達の成し遂げた偉業に感謝し、実りの秋を祝い豊年祭を開催 ・又、水恩祭については[葎原井路]毎年4月12日、[白水井路]毎年4月6日、[荻柏原井路、音無井路]毎年4月10日、[刈小野井路]毎年9月に実施し、水恩に感謝の気持ちを新たにしている。	・[全共通]土地改良区及び任意組合が各幹線水路や支線水路を管理しており地元農家自ら日々管理を行っている。 ・[全共通]多面的機能交付金を活用し農業者と地域住民等が農地、水路、農道などの地域資源を共同活動で保全管理している	[城原井路] ・国・登録文化財記念物「落門の滝」 ・疎水百選	[全共通]農業水利偉人伝「中川久清」、「垣田幾馬」、「後藤鹿太郎」副読本を作成し教育現場等の学びの場で活用している。	・[全共通]地域住民・小学校・関係団体・水土里ネットが連携して維持管理。 ・[全共通]非農家を含めた地域住民と協働の水路清掃を実施。	・[全共通]井路の大切さや水利偉人について、毎年小学4年生を対象に地域学習として井路について学習をし、水の大切さや、地域農業を今なお支える井路づくりにかけた当時の人々の思いや偉業を学んでいる。 又、教育イベントとして「たけたのイロについてイロイロカタロー」を開催。代表校3校が発表し意見交換をおこなっている。	[城原井路] ・水路を活用するために、小水力発電所を建設。
②栞田原井路 大分県竹田市		[栞 田 原 井 路]4	[栞田原井路]約 360年(1660年頃)	[栞田原井路] ・岡藩主中川公の命により開削 ・築造は1660年頃と伝わる。玉来川(大野川1次支川)から取水する。用水を補給するため頭首工は中流部にも1つ設けられている。						・[荻柏原井路]又、荻柏原土地改良区については、毎年4月6日の水恩祭に前年度に学んだ児童を招待し、一緒に感謝の意を称している。	
③葎原井路 大分県竹田市		[葎 原 井 路]33	[葎原井路]345年 (1679年)	[葎原井路] ・1679年(延宝7年)に開削され泉谷川(大野川3次支川)から取水する。幹線水路長は約2.1km。 ・その開鑿と石垣の築造の困難は言語に絶するものがあった その数年後 農民一揆で水路の石垣が崩壊され127年間放置され水の流れない時があり1811年(文化8年)までに修復され杉園井路として通水。 昭和30年に荻西部土地改良区となる。						・[全共通]地域おこし団体 岡の里事業実行委員会では市内の水利施設を巡るツアーを年4回実施し、市内外の方々に施設紹介をする取り組みを行っている。	
④刈小野井路 大分県竹田市		[刈 小 野 井 路]47	[刈小野井路]325年(1699年)	[刈小野井路] ・1900年(明治33年)炭竈より下志土知に至る助井路が完成 ・1902年(明治35年)工藤右三郎の主唱により取入口を上流に移し、長土手を石垣に改修							

世界かんがい施設遺産「竹田のかんがい用水群」申請施設の概要一覧表 (R7. 4. 1 現在)

施設名称 所在地	施設分類	受益 面積 (ha)	建設後の 経過年数(西暦 年)	特筆すべき技術的特長	伝統文化等	運営・管理	他機関による 評価	施設の 認知度	多様な主体 の参画	地域活性化	その他特筆 すべき事項
⑤吉田井路 大分県竹田市		[吉田井路]19	[吉田井路]約220年(1800年頃)	[吉田井路] ・本井路開削起源は明らかではないが土地の古老からは約200年前といわれている。 ・火山性の軟弱な岩質での隧道を施工							[吉田井路] ・水田裏作としてサフラン栽培(日本一の生産を誇る)
⑥中尾井路 大分県竹田市		[中尾井路]28	[中尾井路]約219年(1805年頃)	[中尾井路] ・1805年(文化2年)に開削され大野川本川から取水する。頭首工は、吉田井路の頭首工の約300m下流にあり、幹線水路長は約2.2km。水路開設当時から2回にわたり取入口を上流に移す ・火山性の軟弱な岩質での隧道を施工(隧道222m)							
⑦上河原井路 大分県竹田市		[上河原井路]41	[上河原井路]195年(1829年)	[上河原井路] ・1829年(文政12年)に開削され大野川支川の稲葉川から取水する。幹線水路長は約2.0km ・開鑿当時の詳細は明らかでないが、岡藩主中川公の経営であったといわれている。 ・先人の謝恩のため寄付金を募り水恩碑を建立(昭和9年)							
⑧宮ヶ瀬井路 大分県竹田市		[宮ヶ瀬井路]15	[宮ヶ瀬井路]191年(1833年)	[宮ヶ瀬井路] ・1833年(天保4年)に開削され大野川支川の玉来川から取水する。幹線水路長は約14.2kmである。							[宮ヶ瀬井路] ・小水路を活用するために、水力発電所を建設。 ・紫草(紫根)の産地
⑨天保井路 大分県竹田市		[天保井路]26	[天保井路]188年(1836年)	[天保井路] ・1836年(天保7年)に開削され天保井路は吐合川(大野川2次支川)から取水する。幹線水路長は約2.6km 隧道13本、サイフォン2箇所、掛樋1箇所							
⑩添ヶ津留井路 大分県竹田市		[添ヶ津留井路]7	[添ヶ津留井路]142年(1882年)	[添ヶ津留井路] ・1882年(明治15年)に開削され産山川(大野川2次支川)から取水する。幹線水路長は約7.4kmである。岩石や隧道が多いため補強管理に充分注意している。							

世界かんがい施設遺産「竹田のかんがい用水群」申請施設の概要一覧表 (R7. 4. 1 現在)

施設名称 所在地	施設分類	受益 面積 (ha)	建設後の 経過年数(西暦 年)	特筆すべき技術的特長	伝統文化等	運営・管理	他機関による 評価	施設の 認知度	多様な主体 の参画	地域活性化	その他特筆 すべき事項
⑪植木井路 大分県竹田市		[植木井路]11	[植木井路]134年 (1890年)	[植木井路] ・1909年(明治42年)に水量乏しく新たに井路を開鑿し灌漑面積15haとなる。 ・1930年(昭和5年)なお水量不足のため1kmの隧道を延長し水量確保							
⑫音無井路 大分県竹田市		[音無井路]99	[音無井路]132年 (1892年)	[音無井路] ・1693年(元禄6年)の須賀勘助による着工から井上藤蔵・熊谷桃三郎らによる完成まで200年を要した。 ・幹線延長2,103mのうち、1,781mがトンネル区間である。その後、地区内部による水利争いが生じたため、1934年(昭和9年)一定の割合で正確に分配するために、円筒状の設備の中心部に用水を湧き出させ、円筒外周部から越流させる仕組みとなっている円形分水(近代土木遺産)が設置されました。			[音無井路] 近代土木遺産登録「円形分水12号分」				[音無井路] ・平成29年6月14日にフランス(パリ)で開催された第29回ユネスコ人間と生物圏(Mab)計画国際調整理事会において、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの登録決定
⑬神原井路 大分県竹田市		[神原井路]24	[神原井路]128年 (1896年)	[神原井路] ・1896年(明治29年)に開削され、頭首工が2つあり、波木合川(大野川3次支川)の最上流部から取水する。幹線水路長は約9.1kmである。・硬岩の隧道掘削(3箇所、延べ300m) ・水路完成で10haを開田。その後、水路延長により20.7haを開田							[神原井路] ・平成29年6月14日にフランス(パリ)で開催された第29回ユネスコ人間と生物圏(Mab)計画国際調整理事会において、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの登録決定
⑭白水井路 大分県竹田市		[白水井路]92	[白水井路]124年 (1900年)	[白水井路] ・1900年(明治33年)に開削され大野川本川の上流部にある白水の滝(国・登録記念物)から直接取水する。幹線水路長は約8.3kmである。 ・3,000mに渡る断崖の中腹を掘削した水路トンネル ・新藤川を渡るサイフォン ・サイフォンが破裂したため掛樋で復旧			[白水井路] 国・登録文化財記念物「白水の滝」				[白水井路] ・小水路を活用するために、水力発電所を建設。

世界かんがい施設遺産「竹田のかんがい用水群」申請施設の概要一覧表 (R7. 4. 1 現在)

施設名称 所在地	施設分類	受益 面積 (ha)	建設後の 経過年数(西暦 年)	特筆すべき技術的特長	伝統文化等	運営・管理	他機関による 評価	施設の 認知度	多様な主体 の参画	地域活性化	その他特筆 すべき事項
⑮若宮井路 大分県竹田市		[若 宮 井 路]47	[若宮井路]123年 (1901年)	[若宮井路] ・1901年(明治34年)に開削され 大野川支川の稲葉川から取水す る。幹線水路長は約27.3kmであ る。下流地区に用水を供給する ため、濁淵川や笹無田川を横断 する巨大な水路橋が造られた。 若宮第1幹線(L=13,196m) ・ 隧 道：11,214m ・ 水路橋：121m ・ 開 渠：1,605m、・暗渠：256m			[若宮井路] 国・有形文化財 「笹無田石拱 橋」、市指定文 化財・土木遺産 「鏡石拱橋」				
⑯中角井路 大分県竹田市		[中 角 井 路]29	[中角井路]121年 (1903年)	[中角井路] ・ 井路完成時の灌漑面積不明 ・ 路線変更のため1915年(大 正4年)知事の許可を受け工事 着手 井路延長1.9km。主たる工事は 隧道5号L=572m ・ 1920年(大正9年)水不足解 消のため中角川4箇所、名子川 4箇所の助井出を開鑿							[中角井路] ・平成29年6月14日にフ ランス(パリ)で開催された 第29回ユネスコ人間と生 物圏(Mab)計画国際調 整理事会において、祖 母・傾・大崩ユネスコエコ パークの登録決定
⑰明治岡本井路 大分県竹田市		[明治岡本井 路]134	[明 治 岡 本 井 路]111年(1913 年)	[明治岡本井路] 1913年(大正2年)に開削され頭 首工が6つあり、稲葉川1か所、 笹無田川(大野川2次支川)3か 所、井無田川(大野川3次支川) 1か所、小賀川(大野川3次支 川)1か所から取水する。幹線水 路長は約6.3kmである。 ・ 1921年(大正10年)に箱樋 から延長240m高さ3.5m～5.5m の石垣づくりに変えて通水し た。起伏の激しい山間部につく られた長い石垣井路としては 極めてめずらしい。国の登録有 形文化財に指定されている。			[明治岡本井路] 国・登録有形文 化財「石垣井 路」				
⑱富士緒井路 大分県竹田市		[富 士 緒 井 路]398	[富士緒井路]110 年(1914年)	[富士緒井路] 1914年(大正3年)に開削され用 水源は大野川本川上流の白水 溜池は国の重要文化財に指定さ れている。また、用水を補給す るため、山崎川(大野川1次支 川)からも取水する。幹線水路長 は約14.2kmである。 ・片ヶ瀬など高台への用水確保 のため水力発電+揚水を1898 年(明治31年頃)に構想。			[富士緒井路] 国・重要文化財 「白水溜池堰 堤」				[富士緒井路] ・小水路を活用するた めに、水力発電所を建設。

世界かんがい施設遺産「竹田のかんがい用水群」申請施設の概要一覧表 (R7. 4. 1 現在)

施設名称 所在地	施設分類	受益 面積 (ha)	建設後の 経過年数(西暦 年)	特筆すべき技術的特長	伝統文化等	運営・管理	他機関による 評価	施設の 認知度	多様な主体 の参画	地域活性化	その他特筆 すべき事項
⑱戸上井路 大分県竹田市		[戸上井路]13	[戸上井路]108年 (1916年)	<ul style="list-style-type: none"> ・1914年(大正3年)に発電所竣工(水不足のため揚水は大正8年以降) ・大谷ダム、白水溜池の完成で十分なかんがい用水を確保 <p>[戸上井路]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1916年(大正5年)に開削され、用水源は戸上溜池 1938年(昭和13年築造)である。また、用水を補給するため、大野川支川の吐合川からも取水する。幹線水路長は約3.7kmである。 ・かんがい用水、地区の防火用水として水路を作る。 							
⑳明正井路 大分県竹田市		[明正井路]716	[明正井路]100年 (1924年)	<p>[明正井路]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1924年(大正13年)に開削され大野川1次支川の緒方川と神原川から取水する。幹線水路長は約48.0kmと長大であり、支線水路長と合計した総延長は約175kmである。起伏に富む地形に用水を通すため、17基の水路橋が設けられた。 ・特に、6連アーチ橋は国内最大規模の石造水路橋である。 			[明正井路] 土木学会推奨 土木遺産「第一 拱石橋」				
㉑荻柏原井路 大分県竹田市		[荻柏原井路]600	[荻柏原井路]100年 (1924年)	<p>[荻柏原井路]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1924年(大正13年)に開削された。用水源は大谷ダムである。また、用水を補給するため、大谷川(大野川本川上流)からも取水する。 ・「東の天竜、西の柏原、荻」と評されるほど難工事であった。 ・水路トンネルでは、水力発電を行い日本初の電気削岩機を使用した隧道掘削。 							<p>[荻柏原井路]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小水路を活用するために、水力発電所を建設。 ・標高約500mの高台に位置する原野を田畑に一変させ、地域活性化の原動力となり、地域経済に大きく貢献。 ・1994年(平成6年)より小学生を対象に出前授業を実施(今年で30年目)。